

でんでら通信 第百二十九号 令和七年一月

坐禅会

一月三十一日（金）十時に坐禅会を開催します。
みなさんのご参加をお待ちしております。

巳年に因んで

新年あけましておめでとうございます。
今年こそ大きな災害もなく気候不順もない良き一年
でありますことをお祈りします。

さて、今年巳（み）年であります。干支の六番目。
巳（へ）が冬眠から目覚め地上に這い出すことから、
冬に根をはった草木が芽を出し「新しい種子が生まれ
る」という意味があると言われています。このことか
ら巳年は、力を蓄えていたものが芽を出す「起点」の
年、脱皮する特性と併せ「再生と誕生」を意味する年
と言われています。他にも巳（み）と実（み）を掛け
て「実を結ぶ」年と言われたりもします。

巳あるいは蛇という語は、仏教用語、禅語にもよく
使われています。

牛飲水成乳、蛇飲水成毒

（牛の飲む水は乳となり 蛇の飲む水は毒となる）

これは中国五代十国の呉越から北宋初（九〇四〜九
七五）の僧、永明延寿（えいめいえんじゅ）の仏教論
書、宗鏡録（すぎよろこ）に残る一文です。

同じ水であっても、牛が飲めば乳に変わるし、毒蛇
が飲めばこれは毒に変わる。例えば、お酒を飲める人
にとっては、百薬の長として有効でも、飲めない人に

とっては健康を害します。

「同じ水でも、飲み手次第では異なる変化が起きる」
ということですが。

水に限らず、仏さまの教えでも同じです。インドで
お釈迦さまが話した教えは、弟子たちが口伝として各
地に布教されました。しかしその国、その地方、権力
者により、受け取り方が変化していきました。

大きくは、大乘仏教と小乗仏教に分けられます。大
乗仏教は、大きな船に乗ったように仏教を信仰し、あ
らゆる人を救う教えです。

それは、自利利他（じりりた）の教えが特徴です。

自利利他とは、

「自分が幸せになれば他人も幸せになる」

「他人のために教えを守り、他人のためになること
は自分のためにもなる」

「自分だけでなくあらゆる人を救済する」
という考え方です。

対して小乗仏教は、それまでの決まり事や伝統を守
り自分自身のために教えを守り、修行した人だけが救
われるという教えです。

大乘仏教の教えは厳しい修行を重ねてきた人を否定
することになり、保守的な人々の反感を買いました。
しかし、限られた人だけを救う教えではなく、あらゆる
人を救うという考え方が多くの人に支持され広まっ
ていきました。

日本には、飛鳥時代（五五二年）に大乘仏教として
伝えられました。そして長い年月をかけ宗派が分かれ
広まり伝えられました。現在の日本仏教はほとんどが
大乘仏教となっていますが、新興宗教団体の中には、

小乗仏教の考え方をするとところもあります。

日本人には、組織や団体の集団を重んじる国民性か
ら、大乘仏教が受け入れられやすかったのでしょう。

ちなみに、大乘仏教の国は、

日本、ネパール、ベトナム、ブータン、中国、朝
鮮など。

小乗仏教の国は、

ミャンマー、タイ、スリランカ、カンボジア、ラ
オスなどです。

ざっとこの国々の現在を見てみますと、小乗仏教の
国は経済的には厳しそうですが、人々の生活の中に、
信仰心が根付いているように感じます。人々が互いに
手を合わせ挨拶しているイメージがあります。

対して大乘仏教の国々の現在を見てみますと、経済
的には裕福なようですが、仏教の教えからはだんだん
と外れ、自利利他の精神も薄らいできているようなイ
メージがあります。将来が心配されます。

仏教という信仰も水と同じように、真理（真実や道
理）は一つであっても、その解釈により乳または毒に
もなり、大きく変わってくるという事です。

巳年に因んで、駄文を書き記してまいりましたが、
私自身としましては、蛇は大の苦手であります。前世
はカエルで、蛇に睨まれ恐ろしい目に遭ったのかもしれ
ません。

2025年（令和7年）が始まりました。物価高
が聞こえ、景気に先行きが見通せない状況ではあり
ますが、少しでも明るい話題がのぼることを願って
おります。どうかみなさまにとって良き一年であり
ますことをお祈りいたします。